

## 8 / 25 『この上もない喜び』(ヤコブ1:1~4)

山谷寛人神学生

- \* ヤコブは「様々な試練にあうときはいつでも、この上もない喜びと思いなさい」と勧めます。これは不可能に思えるようなお勧めです。しかしたとえ不可能に思えたとしても、御言葉に従い、主のために忍耐して生きようとするならば主の豊かな祝福があります。主のためになされる労苦には、必ず報いがあるのです。
- \* 「信仰が試されると忍耐が生まれる」と言います。この忍耐は、主のもとに留まるために必要な力です。その忍耐を働かせるならば、主は私たちに信仰の成熟へと導いてくださいます。ここに忍耐の恵みがあります。忍耐は信仰の成長を生み出すのです。その恵みの完全な状態は、主が再び来られる終末の時の賜物ですが、その時に向かって内なる人が日々新たにされていく恵みを私たちは味わうことができます。
- \* 時に私たちは、試練に耐えられず、神から離れたたり、罪を犯したりするかもしれませんが、それでも、それで神から見捨てられるのではないことを覚えたいと思います。取り返しのつかないことをしたのではないのです。主のもとに立ち返るなら、その罪はすべて赦されるのです。いつでもやり直すことができます。主は、ご自身のもとに来る者を決して拒めない方です。むしろ、悔い改めてご自身のもとに来る者を喜んでくださる方です。「もう、取り返しがつかない」と思わせて、主に立ち返るのを辞めさせようとするのは人間の滅びを望んでいるサタンです。サタンの罠に陥ってはいけません。救い主を見なければなりません。
- \* 私たちの主イエスは、忍耐を完全に働かせ、何一つ欠けたところのない、成熟した、完全な者となられた方です。ヘブル 5:8-9には「キリストは御子であられるのに、お受けになった様々な苦しみによって従順を学び、完全な者とされた」と書かれています。神の御子であられる主イエスが多くの苦しみによって従順を学ばれたのですから、私たちもその姿に倣いたいと思います。主の似姿に変えられていく者でありたいと思います。
- \* 主は試練を用いて人に忍耐を教え、信仰を成長させ、ご自身に似る者としてくださいます。主の似姿に変えられていくことは、罪を離れ、罪の性質から解放されていくことです。これは人間にとって本当に幸いな状態です。主はどこまでも私たちの幸せを願ってくださっている方なのです。ですから、試練の中にある人は幸いな人になるように招かれているのだと言えます。主は私たちのことを見捨てることなく、私たちの成長を見込んでくださっています。私たちは主のお取り扱いの中で、砕かれ、練られ、整えられて、成熟へ向かっていきます。主に取扱われて成熟へ向かっていくことを喜びと感じられるならば、試練をこの上もない喜びと思うことができるでしょう。目先の試練や忍耐の辛さよりも、その先にある恵みをしっかりと見据えて歩みたいと思います。